（様式２）

3	3	0	1	0

令和７年(2025 年)度　自己評価及び学校関係者評価書

令和８年３月１０日
札幌市立元町中学校

1　本年度の重点目標

1　「生きる力」の育成と知・徳・体の調和のとれた育ち
2　豊かな人間性と社会性の育成
3　健やかな体の育成を図る体制の整備と推進
4　特別支援教育に関わる体制の整備と具体的な推進
5　学校力・教師力の向上を図るための研修の推進
6　家庭や地域社会と協働した「信頼される学校」の創造
7　自他の身を守る能力の育成と危機管理意識の高揚

2　本年度の経営基本方針

「明日も行きたくなる学校」を目指して
①　生徒にとって、学びがいや心の居場所のある学校づくり
②　教職員にとって、働きがいのある学校（職場）づくり
③　生徒や保護者、地域社会から信頼される学校づくり

3　自己評価結果に対する学校関係者評価（Ａ：成果があった　Ｂ概ね良いが課題もある　Ｃ改善が必要）

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	学校教育目標、学校運営の重点、求める生徒像が分掌・係で適宜扱われ、教育活動に生かされている	B	分掌計画の作成段階で学校教育目標との関連を明記するなど、目標と実践の接続をより明確化する。また、学期ごとの振り返りの場を活用し、教育目標に照らした取組状況を確認する体制を整える。学校関係者にも目標と実践の関係が伝わるよう、発信の工夫を進める。	A	A
	教科・特活・道徳・総合の時間配分は適切で時数も確保されている	A	引き続き年間指導計画の進行管理を徹底し、学期ごとの点検を行う。各教科及び領域間の関連を意識した計画づくりを進め、教育課程全体としての質の向上を図る。また、行事や外部要因による時数調整についても、早期対応を心掛ける。	A	A
	分掌間、係間の連絡調整が図られ、前年度の反省を生かしながら効率的に運営が行われている	B	分掌間の連絡方法や共有の流れを整理し、定例的な確認の機会を設定する。前年度の反省事項を一覧化し、年度当初に全体で共有することで改善の方向性を明確にする。ICT の活用等により情報共有の迅速化を図り、組織的な運営体制の強化を目指す。	A	A
学習指導	生徒の意欲を引き出す授業を工夫している	B	校内研修や授業公開を通して実践事例を共有し、意欲を引き出す授業づくりの視点を全体で確認する。生徒による授業評価や振り返りを活用し、授業改善につなげる仕組みを整えることで、組織的な授業力向上を図る。	A	A

・進路指導	生徒一人一人の特性を考慮して授業に取り組んでいる	B	支援を要する生徒の情報共有を定期的に行い、指導方法について共通理解を図る。個に応じた指導の実践例を校内で共有し、合理的配慮や多様な学びの在り方についての研修を充実させることで、学校全体としての対応力向上を目指す。	A	A
	補充・発展的学習等を加味しながら学ぶ力を育む工夫をしている	B	補充・発展的学習の在り方について校内で共通理解を図り、年間計画の中に位置付ける。実践事例を共有し、学力層に応じた課題設定の工夫を組織的に進めることで、生徒一人一人の学ぶ力の向上につなげていく。	A	A
	生徒の能力や努力を見取り適切に評価している	B	評価規準や評価方法について校内での共通理解を一層深めるとともに、ルーブリック等の活用を進める。評価と指導の一体化を意識し、生徒が自らの成長を実感できる評価の在り方を検討していく。	A	B
	進路のガイダンスや、相談活動が充実している	A	学年ごとの進路ガイダンスや説明会を計画的に実施し、進路情報の提供に努めてきた。今後は、生徒が主体的に進路について考える機会を増やすとともに、相談体制の充実を図る。	A	A
	進路情報が適切に収集され、生徒や保護者に提供されている	A	進路指導主事を中心に、各高等学校の説明会資料や入試情報等を収集し、学年集会や進路だより等を通して生徒・保護者へ提供してきた。	A	A
生活指導	生徒が抱えている問題を、見逃さず適切に対応し、安心な環境づくりに努めている	A	生徒理解のための情報共有の機会を定期的に設け、組織的な見守り体制を強化する。相談しやすい環境づくりをさらに推進するとともに、外部機関との連携も視野に入れながら、安心・安全な学校環境の充実を図る。	A	A
	いじめや暴力の未然防止と早期対応に努め、安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいる	B	いじめ防止に関する研修を充実させ、教職員の共通理解を一層深める。生徒が安心して相談できる体制を強化するとともに、日常的な人間関係づくりの指導を継続的に行い、未然防止の取組を組織的に推進する。	A	B
	生徒の間違った行動に対して、愛情と厳しさをもって対応している	B	指導事例を共有し、愛情と厳しさを両立させた指導の在り方について校内で確認する機会を設ける。生徒の内面理解を深めるための研修を充実させ、組織的で一貫性のある生徒指導体制の確立を目指す。	A	B
	生徒が相談しやすい雰囲気づくりに努めている	A	相談窓口や相談方法を改めて周知し、複数の相談経路を確保する。日常的な対話を大切にし、信頼関係の構築を継続的に進めるとともに、教職員間で情報共有を行い、早期対応につなげる体制を強化する。	A	A
	生活指導を通して、保護者との信頼関係づくりに努めている	A	日常的な情報発信を工夫し、課題発生時だけでなく前向きな情報も積極的に共有する。保護者の意見や思いを丁寧に受け止める姿勢を大切にし、双方向のコミュニケーションを通して信頼関係の深化を図る。	A	A

道徳指導	生徒の心の成長や人間としての生き方を考えることができる指導を適切に行っている	B	道徳授業の実践事例を校内で共有し、指導方法の工夫や発問の在り方について研修を行う。振り返り活動を充実させ、生徒が自己の成長を実感できるような指導の質的向上を図る。	A	A
	道徳的な力を養うための時間が適切に確保されている	B	年間指導計画に基づき、道徳科の授業時数は確実に確保され、計画的に実施している。今後は、学校行事や学級活動等とも関連付けながら、道徳的価値に触れる機会を設けていきたい。	A	A

家庭との連携	学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守り、指導していく体制ができていると思う	B	家庭・地域との情報共有の機会を充実させ、連携の目的や内容を明確にする。地域資源の活用や外部人材との協働を計画的に進め、学校・家庭・地域が一体となった見守り体制の強化を図る。コミュニティースクール開始に向けての１年とする。	A	B
	学校が家庭に出すホームページ・文書等は適切である	A	発信内容や更新計画を整理し、定期的かつ分かりやすい情報提供を心掛ける。ICT の活用を進め、保護者が必要な情報を迅速に得られる環境を整えるとともに、意見を反映できる仕組みづくりを検討する。	A	A
	保護者に各種たよりやプリントが届いて、学校や子どもたちの様子を知ることができる	A	今後も定期的な情報発信を継続するとともに、内容の分かりやすさや見やすさを工夫する。紙媒体とデジタル媒体の効果的な活用を図り、より確実で迅速な情報共有体制を整える。	A	A

健康	学校は生徒の健康と安全、体力の向上に努めている	B	保健・安全に関する指導内容を見直し、実生活につながる具体的な指導を充実させる。体力向上に向けた取組を計画的に位置付けるとともに、安全教育を継続的に実施し、生徒自身の自己管理能力の向上を図る。	A	B